



DIGITAL MIXING CONSOLE

M7CL
VERSION 3

M7CL StageMix V1.6 ユーザーガイド

StageMix



ようこそ

このたびは、ヤマハデジタルミキシングコンソール M7CL 用 iPad アプリケーション「M7CL StageMix」(以下 StageMix)をダウンロードいただきありがとうございます。

StageMixはM7CL V3.5以降のパラメーターをワイヤレスコントロールするiPad アプリケーションです。StageMixを使用すれば、モニターエンジニアはステージ上でパフォーマーのポジションから直接M7CLのミキシングパラメーターを操作できるようになります。iPadならではのシンプルかつ直感的な操作性によってセットアップの時間が短縮され、M7CLのライブサウンドセッティングがさらに快適なものとなります。

M7CLの最新ファームウェアは、下記のURL からダウンロードできます。
<http://proaudio.yamaha.co.jp>

目次

	Page
1.0 ソフトウェアの動作環境	4
2.0 Wi-Fi の設定	4
3.0 準備編	5
3.1 M7CL ネットワークの設定	5
3.2 iPad の Wi-Fi 設定	5
3.3 StageMix の設定	6
3.3.1 オフラインデモモード	7
3.3.2 StageMix を設定する	7
3.3.3 ミキサーを選択し動作を開始する	8
4.0 StageMix 操作編	9
4.1 Mixer ウィンドウ	9
4.1.1 チャンネルバンクナビゲーション	9
4.1.2 チャンネル名	10
4.1.3 フェーダー	10
4.1.4 チャンネル ON	10
4.1.5 CUE ボタン	11
4.1.6 Master バンク	11
4.2 SETUP ボタン	12
4.2.1 Fader Delay	12
4.2.2 Filled EQ Graph	12
4.2.3 Set EQ band to 0dB with Double-Tap	12
4.2.4 Channel Select – StageMix Follows Console	12
4.2.5 Channel Select – Console Follows StageMix	12
4.3 LONG FADERS ボタン	13
4.4 SENDS ON FADERS ボタン	14
4.4.1 MIX センドオン	15
4.5 EQ の設定	16
4.6 パラメトリック EQ 設定画面	17
4.6.1 HPF	18
4.6.2 EQ バンド 1 および 4	19
4.6.3 EQ ON ボタン	19
4.6.4 (EQ) FLAT / (EQ) DEFAULT	19
4.7 グラフィック EQ 設定画面	20
4.7.1 GEQ オーバービューエリアでの操作	20
4.7.2 ラック位置	20
4.7.3 GEQ タイプ	21
4.7.4 GEQ バンドごとの設定	21
4.7.5 GEQ 編集エリアでの操作	21
4.7.6 GEQ ON	21
4.7.7 GEQ FLAT	21
4.7.8 コピー/ペースト	21

5.0 困ったときは	22
5.1 「No Wi-Fi Available」	22
5.2 「Connection Error」	22
5.3 接続が切れた場合	23
5.4 グラフィック EQ を操作しても音声に変化がない場合	23
5.5 4 本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合	24
5.6 古いバージョンの M7CL との互換性について	24

ご注意

- このソフトウェアおよび取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。
- Apple、AppleロゴおよびiPadは、米国および他国のApple Inc.の登録商標です。
- 本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

1.0 ソフトウェアの動作環境

- アップル社 iPad (全機種)
- ヤマハデジタルミキシングコンソール M7CL Version 3.5 以降
(M7CL-48, M7CL-32, M7CL-48ES のいずれも可)
- Wi-Fi アクセスポイント(802.11n/5GHz 推奨、ただし 802.11g /2.4GHz でも動作可能)
- CAT5 ケーブル (M7CL～Wi-Fi アクセスポイント間接続用)

2.0 Wi-Fi の設定

各機器の取扱説明書に従って、Wi-Fi アクセスポイントを設定してください。特別な設定は必要ありませんが、外部からネットワークへの侵入を防ぐために WPA のようなセキュリティをかけていただくことをおすすめします。Wi-Fi をあまり使用したことがない方は、以下の設定を参考にしてください。

1. Wi-Fi ネットワーク上で名前を設定します (これが「SSID」となります)。
2. セキュリティモード (例: WPA) とパスワードを設定します。
3. ワイヤレスモードを選択します (802.11g または n)。
4. 「n」の場合、ワイヤレスバンドを選択します(2.4 または 5GHz)。
5. 可能であれば「Auto Channel Selection」を有効にしてください。干渉が最小限におさえられたワイヤレスチャンネルが選択されます。

iPad と Wi-Fi アクセスポイント間をより高速で通信するために、802.11n/5GHz のネットワークを選択することをおすすめします。また、外部アンテナを複数使用すると、Wi-Fi アクセスポイントに接続しやすくなります。

3.0 準備編

3.1 M7CL ネットワークの設定

- I. CAT5 ケーブルを使って M7CL ネットワークポートと Wi-Fi アクセスポイントを接続します。AUTO-MDIX 機能のない古いアクセスポイントに接続するときは、クロスケーブルが必要になります。最近の機器の多くは AUTO-MDIX 機能をサポートしていますので、その場合はストレートケーブル、クロスケーブルいずれも使用できます。
- II. M7CL の IP アドレスと MAC アドレスを iPad に入力する必要があります。これらの情報は、M7CL のディスプレイで以下の操作をすることにより確認できます。
 - a. SETUP ボタンを押します。
 - b. NETWORK ボタンを押します。



3.2 iPad の Wi-Fi 設定

iPad で、M7CL の IP アドレスと同じサブネットの固定 IP アドレスに設定します。

- a. iPad で Settings メニューを開きます。
- b. Wi-Fi を選択し、次に正しいネットワークを選択します。



- c. 現在選択されているネットワークの右側にある青い矢印を押し、IP アドレスを編集するための画面を表示させます。

d. 「Static」を選択します。



- e. M7CL の IP アドレスの第 4 オクテットのみを変えた IP アドレスを入力します。(例: M7CL の IP アドレスが「192.168.0.128」の場合、iPad には「192.168.0.127」のように入力します。)
- f. Subnet Mask を設定します。(例:「255.255.255.0」)
- g. iPad の Home ボタンを押し、Settings メニューに戻ります。

3.3 StageMix の設定

M7CL StageMix を起動します。



Select Mixer 画面が表示されます。この画面では以下のようなことができます。

- OFFLINE DEMO モードに入り、M7CL StageMix の機能やユーザーインターフェースを試すことができます。
- StageMix と M7CL を併せて使うための環境設定ができます。
- お使いの iPad 用に設定された M7CL を選択し、StageMix を開始します。

3.3.1 オフラインデモモード

Select Mixer 画面で OFFLINE DEMO ボタンを押すことで、M7CL と StageMix が接続されていない(オフライン)状態でも、アプリケーションの使い方を確認できます。ただし、このモードではレベルメーターは動作しません。

3.3.2 StageMix を設定する

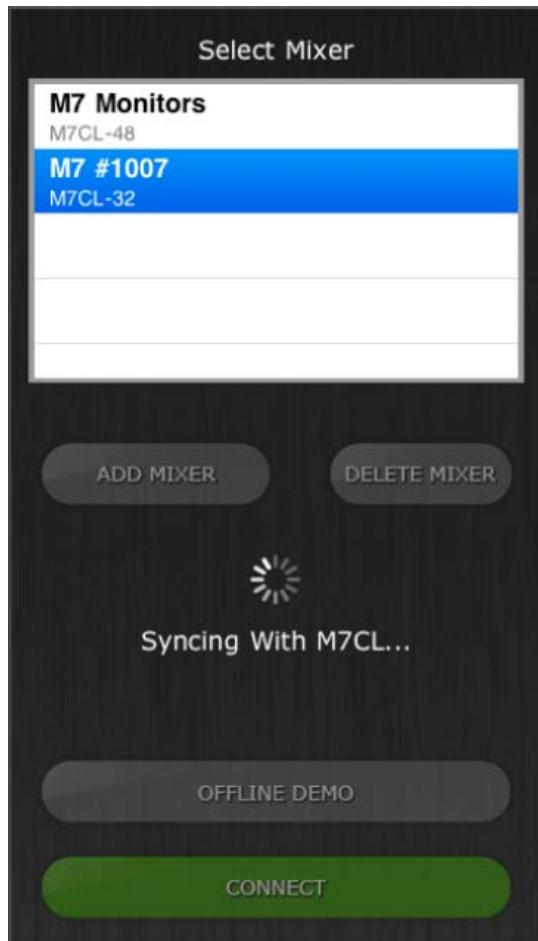
- i. ADD MIXER ボタンを押して、以下の画面を表示します。



- ii. Name フィールドをタップ操作して、お使いの M7CL 用の名前を iPad のオンラインキーボードで入力します。
- iii. M7CL の IP アドレス(3.1 章)を入力します。デフォルトの IP アドレスを変更する必要はありませんが、M7CL の NETWORK ポップアップウィンドウで IP アドレスを確認してください(3.1 章)。StageMix で IP アドレスを変更する場合は、数字群の間に「. (ドット)」が入っていることを確認してください(上記を参照してください)。
- iv. M7CL の MAC アドレス(3.1 章)を入力します。その際、各値の間に「: (コロン)」が StageMix によって自動的に入力されます。
- v. Model フィールドで、お使いの M7CL(M7CL-48 または M7CL-32)を選択します。M7CL-48ES の場合は、M7CL-48 を選択してください。
- vi. 画面下部にある ADD MIXER ボタンを押します。

3.3.3 ミキサーを選択し操作を開始する

お使いの iPad が M7CL と連動するように設定されたら、リストからミキサーを選択して CONNECT ボタンを押します。(3.2.2 章の Model で選択したモデル名(M7CL-48 または M7CL-32)がミキサー名の下に小さく表示されます。)



StageMix が M7CL からパラメーター情報を取得している間、「Syncing With M7CL...」というメッセージが表示されます。この処理に通常約 10 秒かかります。処理が終わると、ミキサー ウィンドウが表示され、StageMix の準備が完了します。

StageMix が M7CL と接続できない場合は、このユーザーガイドの巻末にある「困ったときは(5.0 章)」を参照してください。

4.0 StageMix 操作編

4.1 Mixer ウィンドウ

StageMix のメイン画面です。ここでは、隣り合った 8 つのチャンネルの EQ カーブ、CUE ボタン、ON ボタン、フェーダー、レベルメーター、そしてチャンネル名が表示されます。



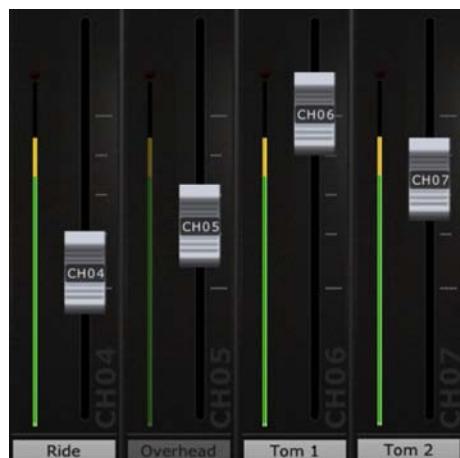
画面上部には、レベルメーターとフェーダーがブロック(mono インプットチャンネル 1-48、Stereo インプットチャンネル 1-4、MIX/MATRIX バス、Master Stereo、Mono バス)に分かれて表示されています。これを「ナビゲーション/メーターブリッジ」といいます。

4.1.1 チャンネルバンクナビゲーション

ナビゲーション/メーターブリッジブロックのいずれかを押し、下部のフェーダーストリップで表示/コントロールされているチャンネルのバンクを選択します。

4.1.2 チャンネル名

チャンネル名は M7CL から送信され、StageMix では変更できません。チャンネルがオフのとき、チャンネル名はグレーアウトしています。



4.1.3 フェーダー

フェーダーは、ノブ部にそれぞれチャンネル番号が表示されています。レベルを調整するにはフェーダーノブにタッチして動かします。フェーダーは、スライダーの新しい位置をタッチしてもジャンプしません。フェーダーノブにタッチすると、バックグラウンドが明るくなり、現在の音量が表示されます。iPad のマルチタッチスクリーン機能を使うと、最大 8 チャンネルまでのフェーダーを同時に動かすことができます。

Note: 4 本以上のフェーダーを同時に動かす場合は、iPad のマルチタスク用ジェスチャをオフに設定してください。



4.1.4 チャンネル ON

チャンネルのオン/オフを切り替えるには ON ボタンを押します。チャンネルがオンのとき、ボタンが緑色になります。チャンネルがオフのとき、チャンネル名とレベルメーターがグレーアウトし、ナビゲーション/メーターブリッジ内に表示されているフェーダーの位置もグレーアウトします。

4.1.5 CUE ボタン

各チャンネルの CUE ボタンは、ミキサーのキューモードをコントロールします。それらの操作状態は、OVERVIEW 画面の左側にある LAST CUE ボタンの状態と一致します。

LAST CUE ボタンが黄色で表示されているとき、一度に 1 つのチャンネルのみがキューモードとなります。ボタンがグレーのときは、複数のチャンネルを同時にキューモードにできます。これは、M7CL の MIX CUE モードと同様の機能です。

CUE CLEAR ボタンを使うと、有効になっているキューモードをすべてキャンセルできます。この機能は、キャンセルしたいキューモードが複数あつたり、一部のキューモードがほかのレイヤーに隠れたりしている場合に便利です。

4.1.6 Master バンク

ナビゲーション/メーターブリッジで [Master] ブロックを押すと、マスターセクションのチャンネルがフェーダーストリップに表示されます。このブロックには、Stereo Master チャンネル、Mono Master チャンネル、Monitor Level、ON の設定が含まれています。

Note: Stereo Master チャンネルの上部には 2 つの EQ サムネイルがあります。パラメトリック EQ は常に Stereo Master チャンネルの L/R 両チャンネルとリンクしています。しかし、GEQ は Stereo Master の L/R チャンネルで個々に設定することができます。



4.2 SETUP ボタン

StageMix ロゴの下にある SETUP ボタンを押すと、ユーザープリファレンスを選択するための新しいウィンドウが開きます。

iPad ステータスバー

iPad のステータスバーがこの画面に表示されます。これにより、Wi-Fi の電波の強さやバッテリーの充電状態を確認できます。



右上の Done ボタンを押すと、Mixer ウィンドウに戻ります。

4.2.1 Fader Delay

フェーダーが意図せず動いてしまうことを防ぐための機能です。ここでは、フェーダーにタッチしてから実際に動かせるようになるまでの時間を設定します。

4.2.2 Filled EQ Graph

この設定が ON のとき、M7CL と同じように塗りつぶされた EQ グラフが表示されます。オフにすると、アウトラインのみが表示されます。

4.2.3 Set EQ band to 0dB with Double-Tap

この設定が ON のとき、ある EQ 帯域でのダブルタップ操作により、その帯域のゲインを 0dB に設定できます。パラメトリック EQ およびグラフィック EQ の両方に有効です。

4.2.4 Channel Select – StageMix Follows Console

この設定が ON のとき、StageMix のパラメトリック EQ 画面とグラフィック EQ 画面で現在選択されているチャンネルは M7CL で選択されているチャンネルに追従します。この機能は M7CL V3.5 以降で有効です。

4.2.5 Channel Select – Console Follows StageMix

この設定が ON のとき、M7CL で選択されるチャンネルは StageMix の EQ 画面で現在選択されているチャンネルに追従します。この機能は M7CL V3.5 以降で有効です。

4.3 LONG FADERS ボタン

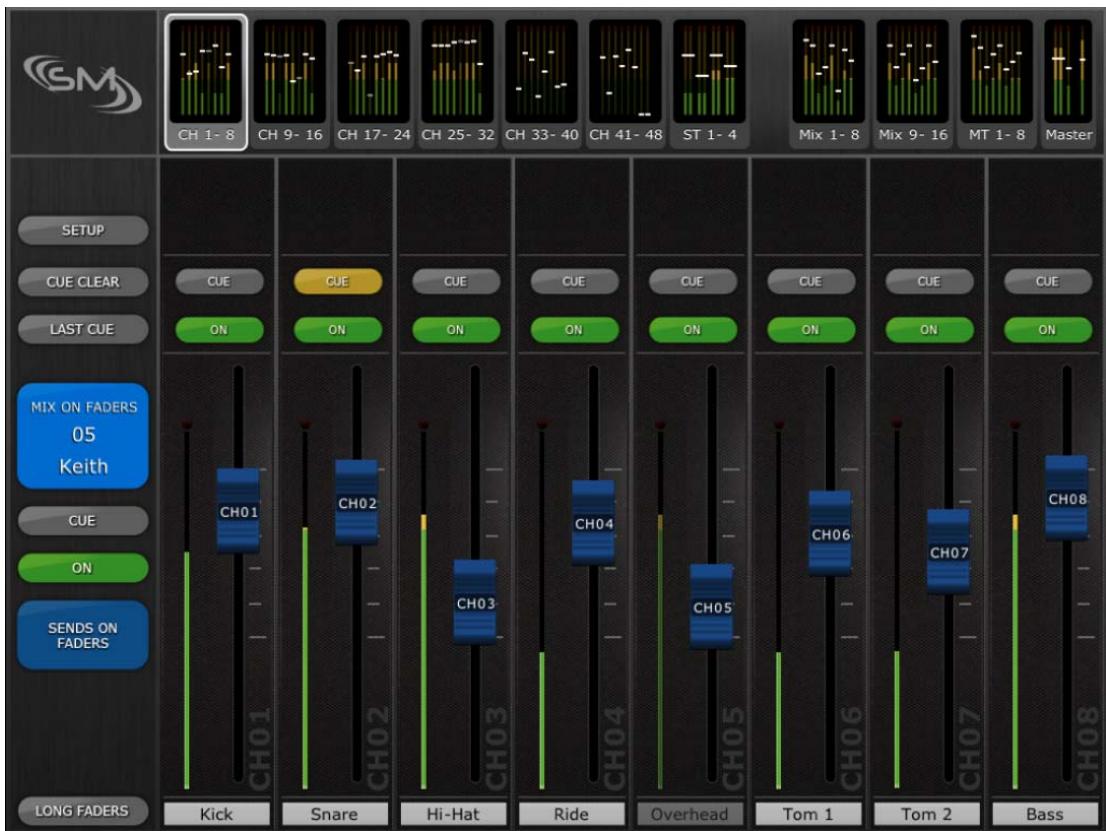
Mixer ウィンドウ左下の LONG FADERS ボタンを押すと、現在選択されているフェーダー・ブロックをより細かく調整できるようになります。この画面では、EQ カーブやナビゲーション/メーターブリッジは表示されません。



左下の LONG FADERS ボタンを再度押すと、Mixer Overview に戻ります。

4.4 SENDS ON FADERS ボタン

Mixer 画面の左側にある SENDS ON FADERS ボタンを押すと、MIX バスや MATRIX バスへのセンドを調節する画面が表示されます。SENDS ON FADERS モードでは、それぞれのフェーダーを使ってそのチャンネルから現在選択されている MIX/MATRIX バスへのセンドレベルを調節します。



大きなボタンが現れ、現在選択されている MIX バスまたは MATRIX バス、およびその名称が表示されます。このボタンの色は M7CL で使われているボタンの色と同じです。CUE ボタンおよび ON ボタンがその下に表示され、現在アクティブな MIX バスまたは MATRIX バスをキューリングにしたりオン/オフを切り替えたりできます。

色のついた MIX ON FADERS ボタンを押すと、新しく操作対象となる MIX バスを選択できます。



MIX 1-16 および MATRIX 1-8 から選択できます。チェックマークの付いた白いボタンが現在選択されている MIX です。ステレオペアに設定されている MIX はひとつの大きなボタンとして表示されます。

4.4.1 MIX センドオン

SENDS ON FADERS モードでは、各チャンネルストリップの ON ボタンを使って各チャンネルから現在選択されている操作対象の MIX/MATRIX バスへの MIX センドをオン/オフできます。

MIX、MATRIX、または MASTER ブロックがナビゲーション/メーターブリッジで選択されているとき、SENDS ON FADERS ボタンは無効となります。

SENDS ON FADERS モードから抜けるには、左側にある SENDS ON FADERS ボタンを押します。

4.5 EQ の設定

M7CL のすべてのチャンネルには専用のパラメトリック EQ (PEQ) があります。また M7CL にはインプットチャンネル/アウトプットチャンネルに割り当て(またはインサート)可能なグラフィック EQ (GEQ) もあります。

Note: GEQ のチャンネルへのパッチ設定は M7CL 本体で行ないます。StageMix ではできません。

Mixer 画面の EQ カーブ

Mixer 画面の EQ カーブエリアは、GEQ がどのチャンネルで使用可能かを知ることができます。あるチャンネルにおいて PEQ に加え GEQ が使用可能な場合、双方の EQ のカーブを表示でき、また双方の EQ タイプの設定画面にアクセスできます。



各 EQ カーブの下部にある緑と青の点は、該当チャンネルで使用可能な EQ のタイプと、そのチャンネルに現在表示されている EQ (PEQ および GEQ) のタイプを示しています。緑の点は PEQ を、青い点は GEQ を意味します。あるチャンネルで PEQ のみが使用可能な設定の場合、EQ カーブの下部の点はいずれも表示されません。(デモモードでは、GEQ が MIX バス 1、7 および 8 に表示されます。)

上図の画面例について:

- ・MIX バス 1 では PEQ および GEQ が使用可能で、現在は GEQ が表示されています(青く塗りつぶされた点、および青いカーブ)。
- ・MIX バス 2 では PEQ および GEQ が使用可能で、現在は PEQ が表示されています(緑で塗りつぶされた点、および緑のカーブ)。
- ・MIX バス 3~8 では PEQ のみが使用可能ですので、EQ カーブの下部の点はいずれも表示されません。

EQ カーブの表示を PEQ と GEQとの間で切り替えるには

EQ カーブの下部に緑と青の点が両方表示されているチャンネルでは、EQ カーブ領域でスワイプ操作によってどちらのタイプの EQ を表示させるかを選択できます。

PEQ カーブが表示されているとき、右から左にスワイプ操作すると GEQ カーブが表示されるようになります。

また、GEQ カーブが表示されているとき、左から右にスワイプ操作すると PEQ カーブが表示されるようになります。

EQ 設定画面へのアクセスについて

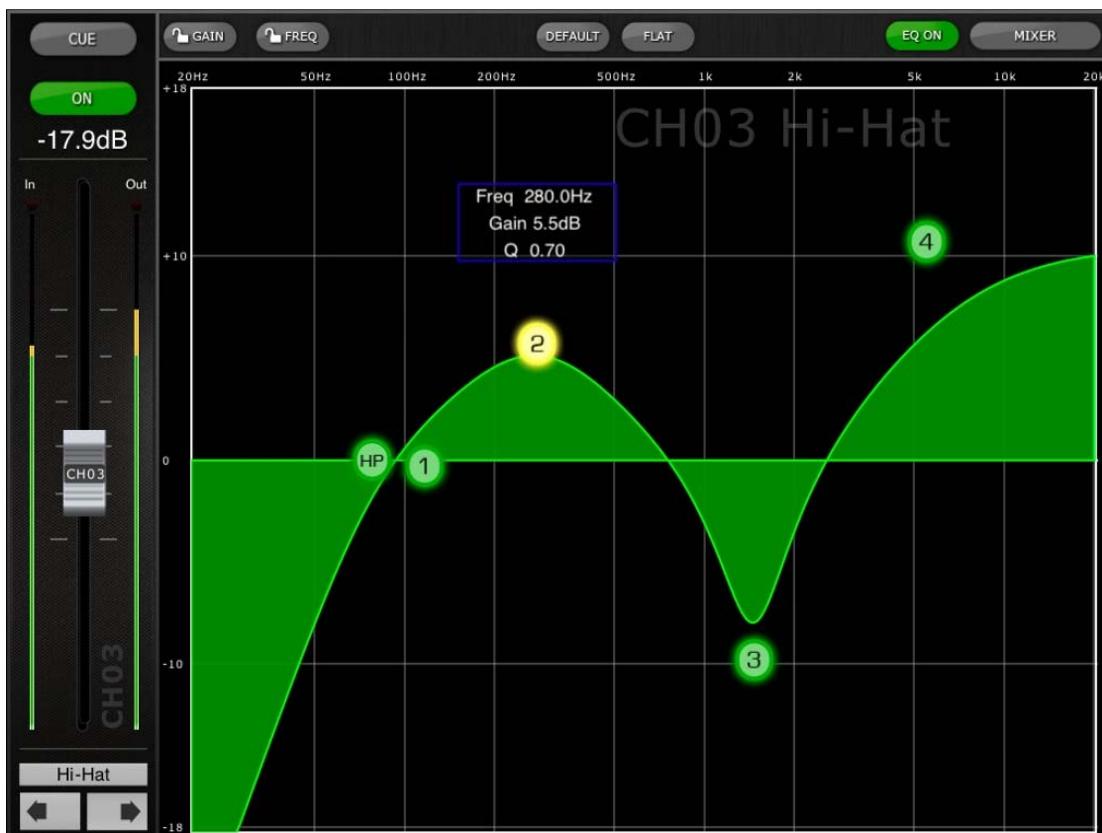
PEQ または GEQ の設定画面に入るには、EQ カーブ上でタップ操作して該当する EQ 設定画面を開きます。

- ・PEQ カーブが表示されているとき、PEQ 設定画面が開きます。
- ・GEQ カーブが表示されているとき、GEQ 設定画面が開きます。

Note:

指が画面上のカーブから離れると EQ 設定画面が開きます。スワイプ操作では設定画面は開きません。

4.6 パラメトリック EQ 設定画面



左側に、現在選択されているチャンネルの名前、フェーダー、レベルメーター、ON ボタン、CUE ボタンが表示されます。左下には「戻る」「次へ」を意味する左右の矢印ボタンが表示され、これを使うとほかのチャンネルに移動できます。

Note: In/Out メーターは EQ セクションの入出力信号のレベルを表示します。

一度に調節できるのはパラメトリック EQ の 1 バンドのみです。緑色の部分を押してバンドを選択すると、その部分が黄色に変わります。StageMix の EQ バンドは以下のように分類されます。

HP = HPF (インプットチャンネルのみ)

1 = LOW バンド

2 = LOW-MID バンド

3 = HIGH-MID バンド

4 = HIGH バンド

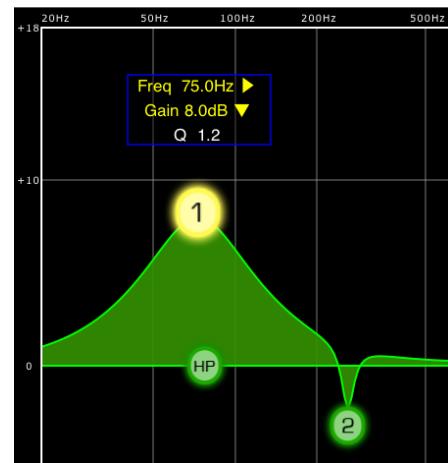
画面上には、現在選択されている EQ 帯域の Freq、Gain、Q の現在値が表示されます。

Gain および Frequency は、グラフで曲線をドラッグすることで調節できます。Q は iPad のピンチの動作（1本の指をスクリーン上に固定し、もう1本の指を固定した指から離したり近づけたりする）で調節します。

TIP

Q を簡単かつ正確に調節するには、親指とひとさし指を使って垂直方向にピンチします。

EQ バンドを動かすと、パラメーター値が黄色に変わり、数値が変化したこと음을示します。小さな黄色い矢印は動かす前の方向を示しています。



周波数を変えずにゲインを調整したり、ゲインを変えずに周波数を調整したりする必要がある場合は、Gain Lock 機能または Frequency Lock 機能を使用します。これらのボタンは EQ グラフの上部にあります。



LOCK ボタンは 4 バンドすべてに機能します (HPF はのぞく)。バンドを調整すると、ロックされたパラメーター値が赤色になります。

4.6.1 HPF

HPF が選択されたときは、HPF ボタンが EQ グラフの上部に表示されます。このボタンを押して HPF のオン/オフを切り替えます。ボタンが緑色のとき、HPF はオン状態になっています。HPF はゲインも Q もなく、周波数のみです。

4.6.2 EQ バンド 1 および 4

EQ バンド 1 と 4 にはバンドタイプも選択できます。これらのバンドではシェルビングまたはピーピングを選択できるほか、バンド 4 では LPF も選択できます。バンド 1 では MIX、MATRIX、Stereo/Mono Master チャンネルの HPF を選択できます。これらのどちらかのバンドが選択されている場合、関連した追加ボタンが EQ グラフの上部に表示されます。



4.6.3 EQ ON ボタン

チャンネル EQ は、EQ グラフの右上にある EQ ON ボタンでオン/オフを切り替えることができます。EQ がオンのときは EQ ON ボタンが緑色になり、オフのときはグレーになります。

4.6.4 (EQ)FLAT ボタン / (EQ)DEFAULT ボタン

EQ カーブの上部にある 2 つのボタンは、M7CL のボタンと同様に機能します。FLAT ボタンはバンド 1~4 のゲインを 0dB に設定しますが、Q および Frequency には機能しません。DEFAULT ボタンは、選択されているチャンネルのすべての EQ パラメーター (HPF を含む) をデフォルト値にリセットします。

これらのボタンのうちの 1 つを押すと、実行(またはキャンセル)する前に「Are You Sure?」というポップアップメッセージが表示されます。

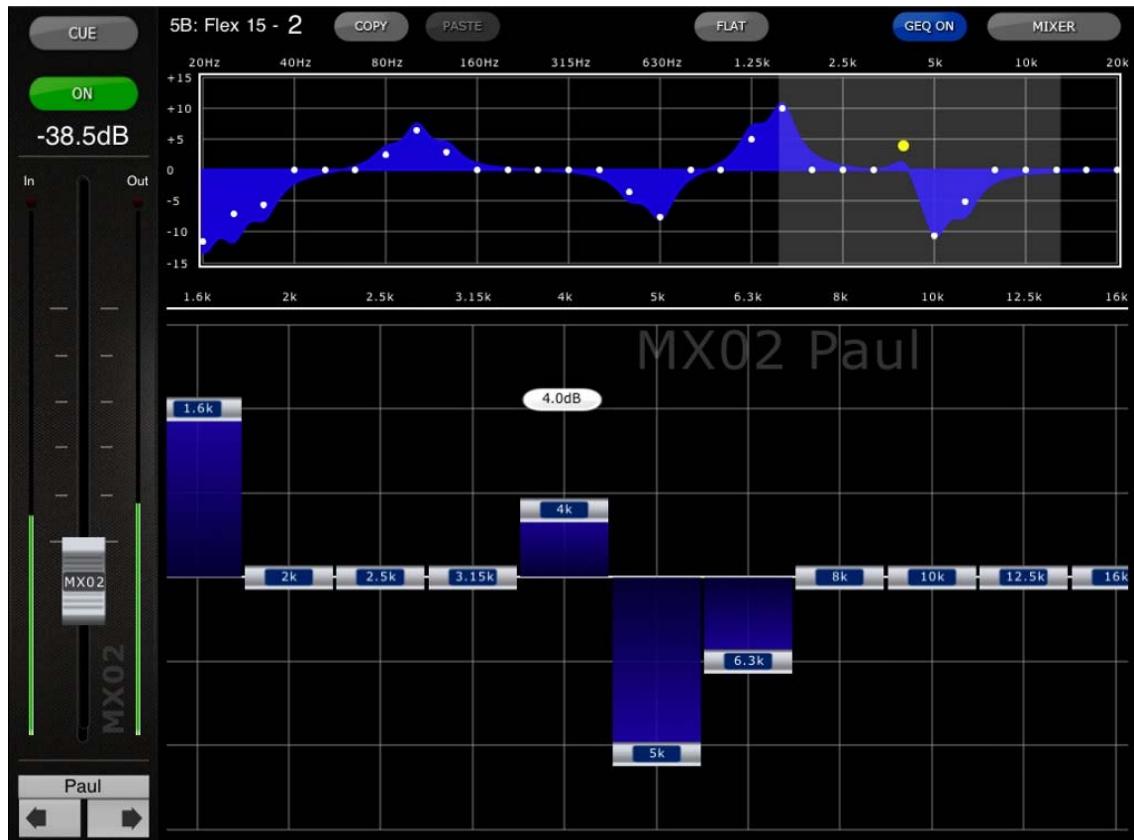


EQ ウィンドウから Mixer ウィンドウに戻るには、画面の右上にある MIXER ボタンを押します。

4.7 グラフィック EQ 設定画面

GEQ オーバービューエリア

GEQ 設定画面の上部には、31 バンドすべてのゲイン値とともに完全な G-EQ カーブが表示されています。白い点は 31 バンドそれぞれの位置を示しています。(下部の編集エリアでスライダーにタッチすると、GEQ オーバービューエリアで対応する白い点が大きな黄色い点に変わります。)



画面左側の欄に、現在選択されているチャンネルのチャンネル名、フェーダー、レベルメーター、ON ボタン、CUE ボタンが表示されます。左下には「戻る」「次へ」を意味する左右の矢印ボタンが表示され、これを使うと G-EQ が割り当てられているほかのチャンネルに移動できます。

Note: In/Out メーターは EQ セクションの入手力信号のレベルを表示します。

4.7.1 G-EQ オーバービューエリアでの操作

GEQ オーバービューエリアのいずれかの部分をタップ操作すると、編集エリアに G-EQ スライダーとその周波数帯域 (オーバービューに淡いグレーの長方形で表示) が現れます。オーバービューエリアで選択したい周波数帯域にタッチして左右にドラッグすると、GEQ スライダーの周波数帯域がスクロールします。

4.7.2 ラック位置

GEQ スクリーンの左上には、チャンネルの G-EQ のラック位置が表示されます。上図では、この G-EQ は 5B のラック位置に割り当てられています。

4.7.3 GEQ タイプ

ラック位置の隣には、GEQ のタイプが「31 Band」や「Flex 15」のように表示されます。「Flex 15 GEQ」の場合、大きい方の数値はその GEQ で使用可能なバンドの残り数値を示します。ひとつのバンドを 0dB 以外に設定すると、使用可能なバンドの数が 1 減少します。使用可能なバンドがなくなると、この数値が赤に変わります。

4.7.4 GEQ 帯域の設定

GEQ 画面の下部にあるスライダーを使って EQ の各バンドを設定します。一度に表示される 10 バンドまでの複数のバンドを同時に設定できます。1 バンドまたは複数バンドのシルバーのスライダーにタッチして垂直に動かし、各バンドのゲインを調節します。GEQ スライダーにタッチしている間、ゲイン値が各スライダーの上部に表示されます。

Note: Flex 15 GEQ で使用可能なバンドがなくなると、スライダーは透明になり操作できなくなります。

4.7.5 GEQ 編集エリアでの操作

GEQ オーバービューエリアの上部での操作に加え、編集エリア下部ではスワイプ操作を使って GEQ 帯域をスクロールできます。

4.7.6 GEQ ON

この画面の右上にある GEQ ON ボタンを使って GEQ のオン/オフを切り替えます。GEQ がオンのときボタンは青で表示され、オフになるとグレーに変わります。オフのとき、GEQ カーブもまた薄いグレーに変わります。

4.7.7 GEQ FLAT

FLAT ボタンを使ってすべての GEQ 帯域を 0dB にリセットします。この機能が実行される前に、確認メッセージが表示されます。

4.7.8 コピー/ペースト

GEQ パラメーターの設定は GEQ 間でコピーしたりペーストしたりできます。COPY ボタンを押して現在の GEQ のパラメーター設定を記憶し、GEQ がアサインされている別のチャンネルを選択して PASTE ボタンを押します。

Note: PASTE ボタンはコピー先として適切な GEQ が選択されているときのみ操作可能です。使用しているバンド数が 15 までの 31 Band GEQ は Flex 15 GEQ にコピーできます。M7CL でコピーされた設定は、StageMix でペーストできません。

5.0 困ったときは

5.1 「No Wi-Fi Available」

StageMix を起動したあとにこのメッセージが表示されたときは、iPad が Wi-Fi アクセスポイントに接続されていないか、または iPad の Wi-Fi 設定がオフになっている可能性があることを示しています。Wi-Fi 機器の設定や iPad の Wi-Fi 設定についての詳細は、2.0 章および 3.2 章をご参照ください。



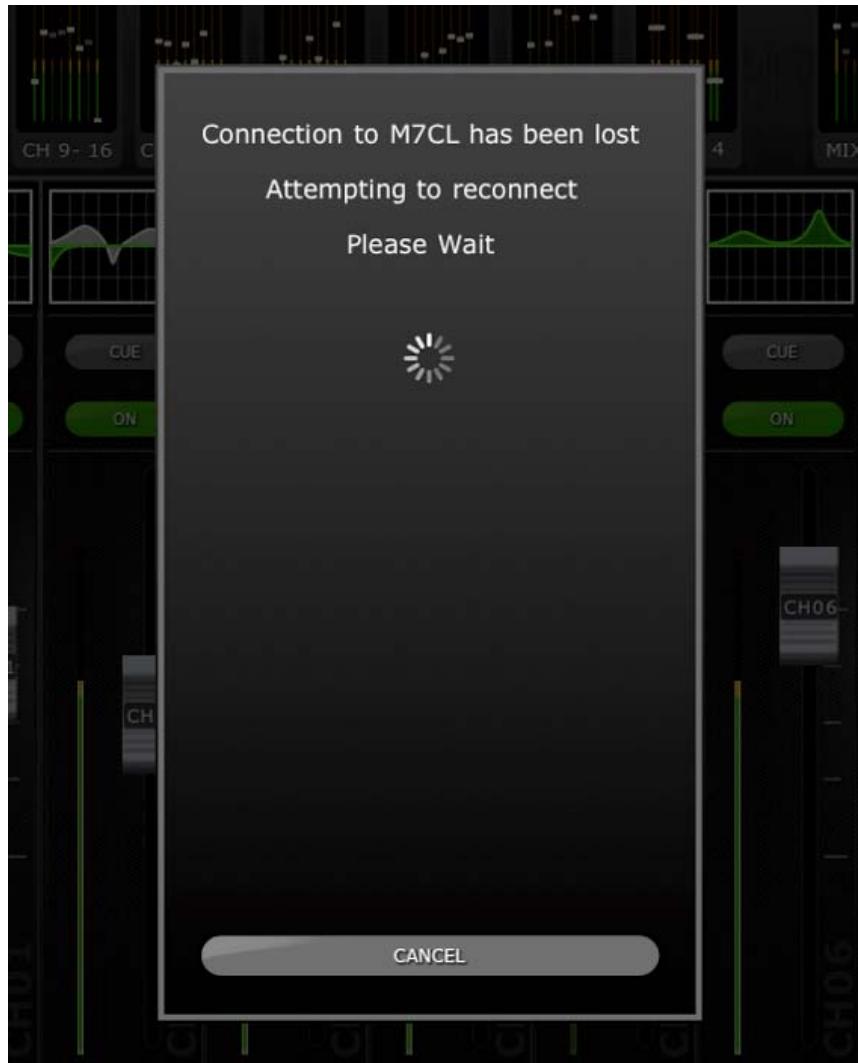
5.2 「Connection Error」

ミキサーを選択したり、CONNECT ボタンを押したりしたあとにこのメッセージが表示されたときは、StageMix が M7CL に接続できないことを示しています。この原因としては、M7CL または StageMix の IP アドレスや MAC アドレスが正しく設定されていない可能性があります。M7CL の設定が StageMix の設定と一致しているかどうかを確認してください。これらの設定の詳細は、3.1 章および 3.3.2 章をご参照ください。この問題は、M7CL の電源を入れていない状態でも起こります。



5.3 接続が切れた場合

StageMix と M7CL との接続が切れてしまったとき、次のようなメッセージが表示されます。このメッセージボックスが表示されている間は StageMix を操作できません。StageMix は自動的に M7CL との再接続を試みます。これが成功すると、StageMix は本体データと再同期し、操作が可能となります。



5.4 グラフィック EQ を操作しても音声に変化がない場合

グラフィック EQ がインプットまたはアウトプットチャンネルにアサインされているにもかかわらずそのチャンネルの音声に変化がない場合、そのチャンネルの INSERT がオフになっている可能性があります。M7CL の INSERT スイッチがオンになっているかどうかを確認してください。

5.5 4本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

マルチタスク用ジェスチャがオフに設定されていると、StageMix で 4 本以上のフェーダーを同時に動かすことができないことがあります。StageMix を使用する場合は、マルチタスク用ジェスチャをオフに設定しておくことをおすすめします。

- a. iPad で[設定]をタップします。
- b. [一般]>[マルチタスク用ジェスチャ]と選択します。
- c. オフに設定します。

5.6 古いバージョンの M7CL との互換性について

M7CL StageMix V1.6(またはそれ以降)は、M7CL ファームウェア V3.5 以前と完全互換ではありません。完全互換にするには最新の M7CL ファームウェアをインストールしてください。



古いバージョンの M7CL をお使いの場合は、Channel Select Follow 機能を無効にしてください(4.2.4 章および 4.2.5 章を参照)。また、チャンネルリンクを組んだ状態で本体の [SEL]キーを使ってチャンネルの相対オフセットを変更した場合、StageMix はそのオフセットを認識しません。これによってチャンネルリンクが正しく動作しなくなります。